

ボボナロ県（事業地）の様子

雨期の直後は緑が多いが、自宅近くに水源がなければ遠方まで水を汲みに行く必要がある。



ボボナロ県（事業地）の民家

藁葺きで非常に質素な作りの家。



現地での水汲みの様子

学校終了後に、子ども達は比較的きれいな水源まで1、2時間をかけて水汲みを行う。下痢や感染症にかかってしまうことも多いが、生活のためにはそれ以外に選択肢はない。



既存の水源（1）

居住地から離れた森林の中にあり、水源の付近はぬかるんでいる。水源から、住民自身が作成した竹で作った樋を通じて水を得ているが、周りに泥水がたまっている状況で衛生的ではない。



既存の水源（2）

コンクリートの構造物で作られた既存の水源。周りや水源の上部を覆うものはなく、泥や木の葉が入っており、飲料水に適さない水となっている。



現地での住民からの聞き取り

実際に住民たちが水源をどのように利用しているのか、頻度や水の利用方法について、聞き取りを行う。既に利用されている水源であっても、パイプライン設置前に水質検査を行い、生活用水に適していることを確認する。



衛生に関するワークショップ

東ティモール（事業地とは異なる県）で行われている、住民を対象とした衛生教育に関するワークショップの様子。

